

【十二月の言葉（令和三年）】

「手を合わせる」と「手が合わさる」

「頭を下げる」と「頭が下がる」・・・違いは？

「志望校に合格できますように！」「試合に勝てますように！」との気持ちから、神仏を拜む神頼みは「手を合わせる」行為です。お願いするので頭を下げます。それに對して、尊敬や畏敬の念から合掌するのが、自然と「手が合わさる」行為です。現代は手の合わさらない時代と言えます。人間としての大切な心が失われつつあるからです。その一つが「もつたいたい」の精神です。「フードロス」と呼ばれる食品の廃棄処分量の膨大さに驚きます。

これまで日本人が重んじてきた「もつたいたい」の精神に感動し、世界中に広めた外国人がいます。ケニアのワンガリ・マータイさんです。彼女は、平和・環境活動への貢献が評価されて、ノーベル平和賞を受賞しました。彼女の提唱する「3R」は、「Reduce（リデュース）削減」「Reuse（リユース）再利用」「Recycle（リサイクル）資源再生」で、環境活動に取り組む上での基本的な考え方として定着しています。この「3R」に、限りある資源への「Respect（リスペクト）尊敬」をプラスしたのが「もつたいたい」の心であると語られます。現代の日本人よりも日本の心を理解されていると感服します。

「お弁当は蓋ふたについた米粒から食べなさい」幼い頃に、亡き祖母から教わった心得です。食べ物や持ち物を尊とうび敬けいう心を忘れてはいないでしょうか。現代では「おかげさま」や「お互いさま」の精神も失われつつあるようです。

（吉村隆真「心の読み葉」参照）